

3 小学校各教科の調査結果の概要及び今後の指導について

(1) 国 語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—
話・聞：話す能力・聞く能力
書 く：書く能力
読 む：読む能力
言 語：言語についての知識・理解・技能

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	設定通過率(%)	通過率(%)	
A話すこと・聞くこと(1) 3・4年エ	1	(1)	話・聞	75.0	79.6	
		(2)	話・聞	75.0	52.7	
	二	話・聞	80.0	65.2		
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 (1) 3・4年ウ(イ)	一	(1)	言語	75.0	78.7	
		(2)	言語	65.0	49.6	
		(3)	言語	70.0	91.1	
		(4)	言語	70.0	68.5	
	二	(1)	言語	70.0	69.2	
		(2)	言語	75.0	73.8	
		(3)	言語	65.0	86.7	
	(2) 1・2年イ	三	言語	70.0	54.0	
	(1) 3・4年ウ(ア)	四	(1)	言語	70.0	55.4
			(2)	言語	75.0	62.9
	(1) 3・4年イ(ク)	五	(1)	言語	75.0	96.2
			(2)	言語	75.0	96.3
(1) 3・4年イ(カ)	六	(1)	言語	70.0	82.0	
		(2)	言語	55.0	30.4	
(1) 3・4年イ(キ)	七	(1)	言語	75.0	78.0	
		(2)	言語	60.0	58.2	
C読むこと(1) 3・4年ウ	3	一	読む	75.0	80.5	
		二	読む	70.0	48.2	
		三	読む	70.0	65.9	
		四	読む	75.0	75.7	
C読むこと(1) 3・4年エ	4	一	読む	70.0	84.3	
		二	読む	60.0	60.8	
C読むこと(1) 3・4年イ	三	A	読む	80.0	89.3	
		B	読む	65.0	41.7	
	四	読む	70.0	83.2		
B書くこと(1) 3・4年 アイウエ	5	書く	書く	55.0	58.8	

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容		設定 通過率	東青管内			西北管内				
				青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡		
1	一	(1)	話の内容の聞き取り(朝ご飯のよさ①)	75.0	80.3	80.3	81.4	76.7	78.6	76.1	74.6
		(2)	話の内容の聞き取り(朝ご飯のよさ②)	75.0	52.8	53.1	48.8	52.9	51.8	59.3	50.1
	二		話の内容の聞き取り(栄養の内容)	80.0	63.8	63.7	66.3	62.1	63.5	58.2	62.9
2	一	(1)	「粉末」の読み方	75.0	76.2	76.3	75.0	88.6	87.7	90.6	88.5
		(2)	「半(ば)」の読み方	65.0	53.2	62.5	38.4	50.1	51.5	54.9	45.4
		(3)	「音(色)」の読み方	70.0	91.6	91.5	93.6	92.1	92.5	94.6	90.0
		(4)	「家来」の読み方	70.0	71.5	71.9	65.1	55.5	54.3	61.3	53.3
	二	(1)	「かせき」の書き方	70.0	63.4	64.0	54.1	72.3	72.2	76.1	69.9
		(2)	「きよ(らか)」の書き方	75.0	73.0	73.0	72.7	81.4	82.3	81.1	80.4
		(3)	「やさい」の書き方	65.0	85.7	85.6	87.8	83.2	82.4	82.8	84.4
	三		「田」の筆順	70.0	56.2	56.0	58.7	55.6	53.6	58.9	55.9
	四	(1)	ローマ字「ittôsyô」の読み方	70.0	51.4	51.4	51.2	56.3	54.4	68.0	51.2
		(2)	「あすなろ」のローマ字での書き方	75.0	58.5	58.5	58.7	67.2	64.7	77.4	63.8
	五	(1)	接続語「なぜなら」の適切な使い方	75.0	94.5	94.6	93.6	97.4	97.7	96.6	97.4
		(2)	接続語「しかし」の適切な使い方	75.0	95.2	95.2	95.3	97.5	98.3	98.0	96.4
	六	(1)	国語辞典の使い方	70.0	82.2	82.6	75.0	80.8	80.2	80.8	81.7
		(2)	国語辞典の使い方	55.0	29.5	29.7	26.2	34.1	34.4	37.4	31.6
	七	(1)	主述の関係	75.0	74.8	75.1	70.3	78.5	78.4	83.5	75.5
		(2)	修飾と被修飾の関係	60.0	53.6	53.3	58.7	67.6	69.2	73.7	61.6
	3	一		叙述をもとに想像した読み取り(場面の設定)	75.0	80.3	80.6	75.6	79.2	77.7	83.2
二			叙述をもとに想像した読み取り(登場人物の会話)	70.0	50.6	50.6	50.6	44.6	45.0	43.8	44.6
三			叙述をもとに想像した読み取り(登場人物の行動)	70.0	66.6	67.0	61.0	65.2	63.5	67.0	66.3
四			叙述をもとに想像した読み取り(登場人物の気持ち)	75.0	76.1	76.5	69.8	70.7	70.3	72.1	70.4
4	一		細部の読み取り(和室と洋室の違い)	70.0	83.6	83.5	84.3	82.4	81.6	86.9	80.6
	二		細部の読み取り(つかれが少なくてすむ理由)	60.0	60.2	60.0	63.4	62.5	62.8	67.0	59.3
	三	A	段落相互の関係を考えた読み取り(部屋の種類)	80.0	88.1	88.3	85.5	91.0	91.7	91.2	90.0
		B	段落相互の関係を考えた読み取り(比較の観点)	65.0	41.0	41.5	33.7	44.4	47.5	43.4	41.2
	四		要旨の選択	70.0	82.8	82.8	82.0	81.9	83.5	79.1	81.7
5			目的に応じた表現(比較の問題)	55.0	57.2	57.7	48.8	65.7	65.0	74.7	60.8
教科全体				70.2	69.2	69.4	66.4	70.3	70.2	73.0	68.5

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内		県全体	
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
79.4	80.1	74.8	78.6	82.7	78.0	82.2	73.3	77.4	77.2	75.9	82.3	82.0	81.8	82.8	79.6
53.2	51.1	53.0	62.1	55.8	55.7	66.5	56.0	48.3	41.6	38.1	55.3	52.6	53.2	50.5	52.7
66.3	67.0	66.3	63.5	65.5	66.1	68.6	67.0	64.0	61.4	64.0	51.1	67.6	68.6	63.9	65.2
77.1	76.8	74.5	76.8	82.0	76.4	79.1	76.1	74.6	75.5	74.6	78.7	80.2	81.4	75.7	78.7
43.3	43.8	38.5	43.9	46.0	54.6	65.6	47.7	50.1	36.9	37.4	34.8	54.9	56.2	50.4	49.6
88.8	88.5	89.2	88.1	91.0	90.6	90.4	90.2	91.0	86.7	88.3	80.1	93.5	94.4	89.8	91.1
61.5	61.7	61.5	60.4	61.5	70.3	69.9	70.5	70.5	66.6	68.3	59.6	76.7	78.6	69.6	68.5
76.3	75.7	74.8	80.0	77.7	64.8	66.1	67.7	62.6	77.9	79.0	73.8	68.5	68.8	67.5	69.2
69.1	67.5	70.5	74.7	69.8	73.8	73.6	70.3	75.5	65.6	66.4	62.4	76.9	78.5	70.7	73.8
90.4	90.3	90.1	92.3	89.2	85.6	86.7	85.0	85.1	89.4	89.4	89.4	86.5	86.9	84.9	86.7
53.3	51.5	54.7	64.6	49.3	53.2	48.8	56.9	54.6	49.1	50.0	45.4	53.3	52.8	55.2	54.0
56.6	54.5	60.1	64.2	55.0	60.7	61.4	60.9	60.2	60.1	61.3	55.3	53.2	56.1	41.8	55.4
66.8	65.5	71.7	74.4	59.4	66.6	68.4	63.7	66.7	67.0	69.1	58.9	58.3	59.2	54.7	62.9
96.2	96.9	97.2	93.3	94.2	97.0	98.1	97.4	96.2	97.4	97.7	96.5	96.3	96.8	94.4	96.2
95.7	96.1	96.6	94.0	94.2	97.3	98.2	97.4	96.6	96.7	96.9	95.7	96.5	96.7	95.8	96.3
82.0	82.2	81.3	83.5	80.2	82.1	79.1	86.2	82.2	80.8	82.7	73.0	82.4	83.3	79.2	82.0
30.0	29.6	28.6	38.9	24.8	30.7	28.8	30.7	31.9	31.7	30.6	36.2	29.4	28.9	31.3	30.4
77.0	77.4	77.1	79.3	71.9	80.6	80.6	84.5	78.8	77.8	78.8	73.8	80.0	80.3	78.8	78.0
60.4	63.0	57.5	68.8	42.1	62.3	70.7	54.6	60.3	61.0	62.4	55.3	53.1	57.9	34.4	58.2
77.9	79.4	76.5	74.7	75.2	82.4	83.5	80.8	82.4	82.2	83.6	76.6	81.8	82.9	77.4	80.5
45.7	47.7	41.1	46.3	40.6	48.9	51.5	49.9	46.7	43.6	45.7	35.5	50.2	51.6	44.8	48.2
64.2	65.2	64.6	62.5	59.7	68.7	70.8	71.0	66.3	57.5	55.8	64.5	67.3	67.6	65.8	65.9
74.0	74.3	75.1	72.3	72.7	78.2	80.2	77.8	77.1	74.6	75.7	70.2	77.6	78.6	73.8	75.7
84.2	85.3	83.0	81.4	83.5	85.9	88.3	83.6	85.3	82.6	81.5	87.2	85.2	85.6	83.7	84.3
59.2	59.5	60.1	61.4	54.3	65.2	65.6	67.0	64.0	56.5	55.4	61.0	60.1	61.5	54.9	60.8
88.8	89.1	87.3	90.2	88.1	90.2	90.8	91.6	89.2	90.7	90.6	90.8	89.2	89.9	86.5	89.3
39.1	38.3	38.8	44.2	38.5	42.0	44.6	42.2	40.3	44.6	46.0	39.0	42.2	42.6	40.5	41.7
82.5	83.4	79.9	82.5	80.9	84.1	85.9	85.7	82.2	80.6	82.9	71.6	84.7	85.4	81.9	83.2
59.5	57.8	55.2	64.2	69.4	63.0	68.2	56.0	62.7	58.0	58.1	57.4	53.9	53.7	54.7	58.8
68.9	68.9	68.3	71.1	67.4	70.9	72.8	70.5	69.8	68.0	68.5	65.9	70.2	71.1	66.8	69.7

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
話すこと・ 聞くこと	3	1一(1)	1一(2)	65.8	76.7
書くこと	1		5	58.8	55.0
読むこと	9	3一、4一、 4三A、4四	3二、4二、 4三B	70.0	70.6
伝統的な言 語文化と国 語の特質に 関する事項	16	2一(3)、2二(3)、 2五(1)、2五(2)、 2六(1)	2一(2)、2三、 2四(1)、2六(2)、 2七(2)	71.0	69.7

内容・領域別にみると、県の平均通過率と比較して、これと同程度だったのは「話すこと・聞くこと」・「読むこと」・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」である。これを下回ったのは「書くこと」である。

設定通過率と比較して、同程度だったのは「書くこと」・「読むこと」・「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」であり、下回ったのは「話すこと・聞くこと」である。

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
話す能力・ 聞く能力	3	1一(1)	1一(2)	65.8	76.7
書く能力	1		5	58.8	55.0
読む能力	9	3一、4一、 4三A、4四	3二、4二、 4三B	70.0	70.6
言語につい ての知識・ 理解・技能	16	2一(3)、2二(3)、 2五(1)、2五(2)、 2六(1)	2一(2)、2三、 2四(1)、2六(2)、 2七(2)	71.0	69.7

観点別にみると、県の平均通過率と比較して、これと同程度だったのは「話す能力・聞く能力」・「読む能力」・「言語についての知識・理解・技能」で、下回ったのは「書く能力」である。

設定通過率と比較して、同程度だったのは「書く能力」・「読む能力」・「言語についての知識・理解・技能」であり、下回ったのは「話す能力・聞く能力」である。

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率(%)	主な誤答(無答を含む)例 (カッコ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)	
1	一(2)	52.7	75.0	無答(20.4)、「勉強がすすむ・はかどる」(19.4)、「体を動かす準備が・体の準備運動が」(18.4)、「本を読んだり計算が」(13.2)、「元気に動く・働くことが」(5.5)
2	三	54.0	70.0	四画目(30.0)、五画目(8.0)、算用数字で解答(3.5)、二画目、無答(2.5)、六画目(0.5)
2	四(1)	55.4	70.0	無答(18.0)、「いっとおしょお、いっとおしょう」(1.0)
2	六(2)	30.4	55.0	イ(39.0)、ア(24.5)、アイウ(0.5)
3	二	48.2	70.0	⑤(25.0)、⑩(24.5)、⑧(23.0)、③(15.0)、三つ解答できず不足しているものがあつた(12.5)、文で解答(2.0)、無答(1.5)
4	三B	41.7	65.0	◇誤答(43.0)、無答(13.5) ◇「部屋でのすごし方」(17.4)、「目的に合わせる」(11.6) 「どんな良さがある」(8.1)

- 1 一(2)について

誤答の原因として、話の組み立てを意識していないことや、「体を動かす準備・体の準備運動」が多いことから、複数回耳にした言葉を答えたものと考えられる。
- 2 三について

誤答「四画目」の原因として、三画目を横画で書いてしまった、あるいは、二画目の「折れ」を一画で書くべきものを二画に分けて書いていたことが考えられる。誤答「五画目」についても「折れ」の書き方やその他の画の筆順が原因だったことが考えられる。
- 2 四(1)について

誤答の原因として、ローマ字の促音、長音、拗音の読み方が十分身に付いていないことが考えられる。
- 2 六(2)について

誤答の原因として二文字目の「っ」「つ」「づ」に誘導されたことが考えられる。基本的にはすべて「つ」であり、三文字目で判別する問題である。見出し語がどのように並んでいるかということについての理解が不十分であると考えられる。
- 3 二について

誤答⑤、⑩、⑧、③の原因として、「ライオンのじんざが、ライオンつかいのおじさんにかわってもらって散歩に出ている」、「男の子は、そのことを知らず、じんざをライオンつかいのおじさんだと思っている」という場面の様子が読み取れていないことが考えられる。
- 4 三Bについて

誤答の傾向として、特定の解答に偏るという訳ではなく、様々な解答が表れ、混乱の様相を呈していたのが特徴的であった。出題の形式に慣れていないことも原因の一つと考えられるが、「なか」の部分の意味段落で二つに分け、その小見出しを捉えることができず、筆者が和室と洋室を比較する上での観点を見い出せなかったことが主な原因であると考えられる。

カ 今後の指導について

内容・領域別に見た課題として、他と比較して通過率の低かった「話すこと・聞くこと」・「書くこと」の充実が挙げられる。

今後の学習指導においては、特に以下の指導が重要である。

「話すこと・聞くこと」	・話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめること。
「書くこと」	・考えたことなどから書くことを決め、目的や意図に応じて、書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理すること。 ・自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること。 ・事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること。 ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと。

評価の観点別にみた課題としては、「話す能力・聞く能力」・「書く能力」の育成が挙げられる。

個々の問題の誤答傾向からみた課題として、「話すこと・聞くこと」については、話の目的や意図は何か、自分に伝えたいことは何かなど相手の話の内容を十分聞き取る能力の育成が挙げられる。

①の問題のお話は、「朝ご飯と元気な体」という内容である。始めに、保健室に来る児童は、朝ご飯を食べていない児童が多いと話している。次に、「朝ご飯を食べるとどうなるのでしょうか」という質問がきているが、話の内容が「朝ご飯と元気な体」ということから、その質問に対する答えを予想することができる。また、質問の直後に「1つは」と言っている。この話の順番を表す「1つは」「次に」という言葉にも注目させたい。話し手が知らせたい事柄を聞き取るために、話の目的や意図は何か考え、相手の話す内容をメモする学習を意図的、計画的に経験させていくことが必要である。

②三の「筆順に従って文字を書くこと」については、「田」の三画目と答えるべきところを、四画目、五画目とする誤答が多かった。横画、縦画、折れなどの点画の種類について理解し、正しい筆順で書くことが求められる。国語科の学習のみならず、各教科等の学習や日常生活の中でも、正しい筆順に従って書くことができるようにすることが重要である。

②四の「ローマ字に関する問題」については、促音、拗音及び長音の表記を読むことが身に付いていなかった。ローマ字表記が添えられた案内板やパンフレットを見たり、コンピュータ等のキーボードを用いて調べたりする学習との連携等など、各学校の実態に応じて適切に工夫してほしい。

②六の「辞書の利用について」は、見出し語の並び方についての理解が不足していた。今後の指導においては、辞書のひき方を学び、結果として意味調べができていることを確認して終わるのではなく、実際に児童がどのように調べているかを観察し、適宜指導することが必要である。また、1冊の辞書を使ってペアで意味調べをし、自分の調べ方を客観的に見つめ直したり、調べ方を教え合ったりすることによって、より効率のよい検索方法について理解させるなど、学習の形態や活動を工夫する必要がある。

②七(2)の「修飾関係について」は、平成18年度から修飾語と被修飾語が連結していない(間に文節が挟まる)問題が出題されている。平成18年度の平均通過率が42.4%であったのに対し、今年度の通過率は58.2%と通過率が向上している。しかも、今年度の問題は修飾語と被修飾語の間に2つの文節が挟まっており、難易度は高かったが、同様の問題であった平成21年度の通過率44.8%を大きく上回る結果であった。58.2%という通過率は高い数値ではないが、年々向上してきていることから、工夫した継続的な指導が行われていることがうかがえる。今後の指導にあたっては、これまで同様、「話すこと・聞くこと」・「書くこと」・「読むこと」の各領域の学習においても適宜修飾と被修飾の関係について確認・指導したり、実際に使ってみたりする

など理解を深めることが大切である。

指導例 「場面と場面、登場人物の行動や会話などを関連付ける」読み方の指導

一平が太郎の家の前を通りかかった時、玄関の前に、太郎がいた。

仲のよい友だちを心配するように。

①「よう、太郎！ どうした？ 元気がないじゃないか。体のぐあいでも悪いのか？」

一平は、自転車を止めて声をかけた。太郎は答えた。

落ちこんでいるように。

②「いや、そうじゃないんだ。宿題の絵を描いていたんだけど、あと少しって時に水をこぼしちゃってさ。」

思いやるように。やさしく。

③「そりゃあ、がつくりくるよなあ。いっぱいこぼしたのか？」

どうでもいいように。やる気がなくなってしまったように。

④「うん…。でも、もういいんだ。てきとうに描いて出すよ。」

太郎は、筆をあらいながら言った。

はげますように。

⑤「だめだよ。太郎は絵がうまいんだから。そんな時は、気分をかえることさ。いっしょに自転車に乗ろうぜ。風を受けたら、さっぱりして、またがんばれるようになるよ。」

友だちのはげましをうれしく思っているように。

⑥「ありがとう、一平。」

【音読の手順】

- ①音読する。
- ②行間に自分が考えた読み方を書き込む。
- ③書き込みをもとに音読を工夫する。
(声の強弱、高低、緩急、間の取り方などを記号を用いて表す)
※書き込みの理由を述べさせたりしてもよい。

叙述をもとに会話文の主を読み取る問題の通過率が、48.2%と低かった。誤答では、⑤、⑪、⑧が多かった。場面と場面、登場人物の行動や会話などを関連付けて読む能力を育成する必要がある。

上記の指導例では、「音読の工夫をする」という言語活動を通して、登場人物の相互関係や心情を捉える事例を示した。会話文や地の文をどのように読んだらよいかという工夫を、何度も声に出して読ませ、考えさせ、書き込ませていく。この過程を通して、児童は、「誰が」「どのような状況の中で」「どんな心情を抱いていたのか」について考えることになる。音読の発表を聞き合ったり、考えを交流したりすることにより、叙述をもとに想像して読む能力が高まっていく。

指導例 「表の項目を考える」活動（一斉指導の場で）

①	和室	
		②
		?
		?

- ・①には何が入るか考えさせる。
- ・筆者は「なか」で和室と洋室のどんなことを説明しているのかを考え、②をいくつに分けたらよいか、それはなぜか、どんな項目（見出し）にすればよいかを考えさせる。
- ※「はじめ」の内容に着目し、「なか」がいくつのまとまり（意味段落）に分かれているかを考えさせる。
- ※「いくつ」「なぜ」「どんな」を分けて考えることはできないので一体的に考えていく。

説明文の内容を表にまとめる問題において、表のBにあたる言葉を探して書く問題の通過率は41.7%と低かった。表のBは筆者が和室と洋室を比較する上での観点を示すものである。それを見出すためには、「なか」の意味段落を捉え、具体的な説明内容を構造的に整理する能力が必要である。

指導例では、「表の項目を考える」活動を示した。これは単に表を作るのではなく、何のために表にまとめるのか、そのためにどのような表（項目）を作るのかということなどを児童に考えさせるものであり、このような活動を工夫して設定することによって、児童は意味段落を捉え、説明内容を整理し、文章を構造的に理解する能力が高まっていく。

「書くこと」については、学習指導要領に、高学年では「事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」、「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと」が示されている。高学年では、「事実」と自分の感想、意見などを区別して書く能力の育成を特に重視しており、指導にあたっては、出来事等の描写と、科学的な観察や実験、説明などとの表現の違いを考えて工夫させるようにしなければならない。

設定通過率との比較からみた課題としては、「読むこと」の充実が挙げられる。

文学的な文章では、叙述をもとにして、場面の設定、登場人物の行動や気持ち、情景を読み取る問題を出題した。場面の設定を読み取る問題は80.5%、登場人物の会話や行動を読み取る問題は48.2%、登場人物の行動から情景を想像する問題は65.9%、登場人物の気持ちを読み取る問題は75.7%と、通過率にばらつきが見られた。今後の学習指導においては、登場人物の性格や境遇、状況を把握し、場面や状況の移り変わりとともに変化する気持ちについて、地の文や行動、会話などから関連的に捉えていくように指導することが必要である。

説明的な文章では、細部を読み取る問題と説明内容を構造的にまとめる問題、そして要旨を選択する問題を出題した。細部を読み取る問題は84.3%と60.8%、要旨を選択する問題は83.2%であった。説明内容を構造的にまとめる問題のAについては89.3%であったが、Bについては41.7%と設定通過率を大きく下回った。文章を表にまとめることは、文章の要点を抽出し、構造的・視覚的にまとめることである。なかでも表の項目にあたる部分を考えることは文章の話題や問いを捉えたり、文章の構成における意味段落を捉えたりすることとなる。今後の指導においては、説明文を表に「まとめる」だけでなく、表を「作る」ことも大切である。なお、表にまとめるということは他教科・領域等においても行われることであり、様々な情報からその要点を抽出し、構造的・視覚的にまとめることができるのは重要な学力である。国語科の学習を中心に表の作り方、つまり情報の整理の仕方を学び、それを活用していくことは他教科・領域で活用できる国語科の学力を身に付けることにもなる。

キ まとめ

内容・領域別では、昨年度と比較してみると、「読むこと」が良好であり、「話すこと・聞くこと」に不十分な点が認められる。また、設定通過率との比較でみると、「書くこと」・「言語事項」が良好であり、「話すこと・聞くこと」に不十分な点が認められる。さらに、小問ごとでは、辞典の使い方において見出し語の並び方について理解ができておらず、説明的文章において比較して項目を考えることができていなかった。

現行の学習指導要領においては、思考力・判断力・表現力等を育むために、各教科等において言語活動を重視しており、国語科で培った能力を基本に、すべての教科等において充実することが求められている。国語科は、言語活動の充実の要であり、各領域において、日常生活に必要な記録、報告、紹介、感想、討論などの言語活動を行う能力を確実に身に付けることができるよう、育てたい力を明確にし、継続的に指導することが重要である。また、問題に応じて必要な文章や資料等を取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力の育成を図っていくことが重要である。